

国際化学肥料ニュース（2014年7月）

肥料業界の2014年7月動態

- * 7月2日、カナダ Canpotex が日本との間に下半期の塩化加里について供給契約を締結したと発表した。CFR 価格 395 ドル/トンで、上半期の 380 ドル/トンより 15 ドル値上げした。

Canpotex もアジア諸国に対して下半期の塩化加里価格を約 15 ドル/トンの値上げを通告した模様。

- * 7月3日、ロシア Uralkali 社が 2014 年 1～6 月の加里肥料生産状況を公表した。塩化加里生産量約 600 万トン、昨年同期の 450 万トンより 30%増加した。その理由は昨年 7 月 1 日に Uralkali 社が BPC から離脱して、安値攻勢で販売量を伸ばしたためである。この 1 年間、塩化加里の国際市場価格が約 100 ドル/トン安くなった。

- * インドネシア Petrokimia Gresik 社は今年下半期の塩化加里輸入量 32.5 万トンの入札を確定した。ベラルーシ BPC が 12.5 万トン、ロシア Uralkali が 5 万トン、カナダ Canpotex が 12.5 万トン、ヨルダン APC が 2.5 万トンである。応札価格は、BPC が CFR310 ドル/トン、他の供給元が CFR320～325 ドル/トンとなっている。

- * イスラエル ICL 社は 2014 年第 3 四半期のヨーロッパ向け塩化加里の価格を 15 ユーロ/トン値上げして、粒状塩化加里も CFR295 ユーロ/トンに値上げする予定である。ロシア Uralkali 社もヨーロッパ向けの塩化加里を 10～15 ユーロ/トン値上げする予定。もし、値上げが実現されれば、フランスやオランダの CFR が 300～305 ユーロ/トン（407～414 ドル/トン）になる。

- * オマーンからの報道によれば、湾岸諸国石油化学工業協会（GPCA）は 2013 年中東の湾岸協力理事会（GCC）諸国の化学肥料生産能力が 4270 万トンに達し、2000 万トン超の化学肥料を世界中 80 数ヶ国に輸出した。昨年、サウジアラビア、カタール、オマーンに大型石油化学と化学肥料プロジェクトが相次ぎ完成したことにより、アンモニア、尿素、DAP の生産能力が大幅に増加した。

2013 年、GCC 諸国の尿素輸出量が世界シェア 25%、アンモニア輸出量が世界シェア 12%を占めるようになった。尿素とアンモニアの輸出先は主にインド、パキスタン、東南アジア諸国等である。

また、GPCA は境内の安値天然ガス、油田ガス、りん鉱石資源を活用するため、この数年内にさらに数ヶ所の大型化学肥料プロジェクトが完成する予定である、2018 年に

GCC 諸国の化学肥料生産能力が 6600 万トンを超える。2020 年以降、中東の湾岸地域は世界最大の尿素、アンモニア供給元になる。

- * 7 月 14 日、インド IPL 社は 7 月 16 日に予定している尿素入札を 7 月 21 日に延期し、締切は 7 月 26 日、最終納品日は 9 月 7 日と発表した。入札数量を無制限とする。
インドの尿素入札発表に対抗する形で、中国窒素肥料工業協会は 7 月 14 日に緊急会議を開き、所属の中国尿素メーカーと商社にインド向けの尿素輸出価格を FOB273 ドル/トン以上にするよう要請した。これに対して、インド肥料協会 (FAI) は、中国側の行動は WTO 貿易ルールを違反するもので、もし、実施されれば、WTO に提訴すると声明を発表した。6 月 18 日締め切りのインド STC 社の尿素入札には、中国産尿素的最低応札価格が CFR266 ドル/トンで、FOB 価格が 252~253 ドル/トンしかなかった。
- * ロシア税関統計によれば、今年 1~5 月、ロシア産加里肥料輸出量が 413 万トン、金額計 11 億ドル、去年同期よりそれぞれ 56.4%、11.5%増であった。これは、Uralkali が昨年 7 月 1 日に BPC から離脱して、安値で輸出攻勢をかけた結果である。
また、1~5 月、ロシア産 窒素肥料輸出量が 508 万トン、去年同期より 8.2%増、輸出金額 13.8 億ドル。化成肥料輸出量が 350 万トン、輸出金額 12.億ドル、去年同期よりそれぞれ 13.5%、26%減であった。
- * ベラルーシ BPC 社が今年 6 月の加里肥料輸出状況を公表した。輸出量が 80~90 万トン、その内訳は、ブラジル 25 万トン、EU10 万トン、インドネシア 13 万トン、インド 9 万トン、中国 6 万トン、マレーシア 4 万トン、バングラデシュ 3 万トン、ベトナム 3 万トン、ニュージーランド 2.5 万トンであった。
- * 天然ガス不足で、エジプトの尿素メーカーが稼働率を下げるまたは稼働停止に対応せざるを得ない。7 月の尿素輸出がほとんどなく、8 月も輸出量が激減する見通しである。
- * タイからの報道によれば、軍によるクーデター後のタイ政府は 7 月から尿素と化成肥料の価格統制を始めた。輸入商社に対して、国内の尿素価格を 800 バーツ/トン (約 24 ドル)、化成肥料価格を 1000 バーツ/トン (約 30 ドル) 値下げするように要求した。当該価格統制は雨季終了の 10 月末までとされる。タイには尿素工場がなく、すべて輸入に依存する。
- * インド IPL 社からの発表によれば、7 月 21 日締め切りの尿素入札は計 33 社、360 万トンの応札があった。今回の尿素入札に最低応札価格は CFR274.77 ドル/トンで、

CFR277 ドル/トン以下の応札量が計 143 万トンもあり、その 80%以上が中国産で、残りはイラン産である。IPL 社の輸入予定量が 120 万トンである。

CFR277 ドル/トン以下の主な応札者と応札価格、数量が下記の通りである。

Liven 社、 274.77 ドル/トン、 12 万トン

Bary 社、 274.87 ドル/トン、 18 万トン

Continental 社、 275 ドル/トン、 28 万トン

Drey Moor 社、 275.43 ドル/トン、 26 万トン

Blue Deebai 社、 275.5 ドル/トン、 10 万トン

Transglobe 社、 275.65 ドル/トン、 18 万トン

Fertrade 社、 275.9 ドル/トン、 7 万トン

Helm 社、 277 ドル/トン、 24 万トン

IPL 社は 7 月 22 日から CFR277.45 ドル/トン以下の応札者を招き、具体的な輸入スケジュールを商談した模様。

前回（6 月 18 日）インド STC 社の尿素入札には、中国産尿素的の最低応札価格が CFR266 ドル/トンで、今回は約 9 ドル/トン高くなる。

- * インド IPL 社の応札結果を受け、中国窒素肥料工業協会は 7 月 22 日午後中国国営尿素メーカーを集めて、緊急会議を開いた。会議では次の対応策を打ち出した。
 1. 7 月 25 日に中国の主要尿素メーカーを招き、輸出自律を要請すると同時に尿素的の荷動きの制御を検討する。
 2. 国内尿素的の最新情報を公表して、尿素的生産ライン稼働不足で、在庫量が減り、休業・廃業メーカーの増加、業界が巨額の赤字に陥った状況を農家に説明する。
 3. 中国の港に在庫している小粒尿素的がすでに 120~130 万トンに達している現状を鑑み、安値で輸出する企業を厳しく取り締る。
 4. 政府に働きかけ、政府主導の非需要期備蓄を前倒し行い、メーカーに資金支援をして、外国商社に安値で販売する企業を懲罰することを要請する。

- * 7 月 25 日、中国窒素肥料工業協会は中国主要尿素メーカーを招き、座談会を開いた。会議の後、今年夏季の窒素肥料安定化に関する意見書を発表した。
 1. 夏季の肥料非需要期を活用して、生産設備の停止点検とメンテナンスを行い、尿素的生産量を減らして、市場価格の安定を図る。
 2. 各企業は値下げ競争をせず、国内の窒素肥料市場の安定を維持する。
 3. WTO 規則を守り、廉価輸出を絶対せず、関係する貿易仲間にも廉価輸出競争を参加しないように説得して、中国尿素的輸出の国際イメージおよび国際肥料貿易秩序を維持する。

4. 新しい販売戦略と販売モデルを樹立し、農業現代化を適するように農家と消費者に奉仕して、国内市場の安定に貢献する。

5. 政府に尿素を抵当とする短期低金利資金の貸出を要求し、大型尿素メーカーの資金難を緩和して、非需要期の生産ライン稼働率を安定させる。

* 7月31日、中国窒素肥料工業協会は尿素廉価輸出禁止令を頒布した。その内容は下記の通りである。

中国尿素工業の正当な利益を守り、国際市場により印象を樹立し、中国産尿素の国際競争力を付けるため、WTO貿易規則、中国の「反不当競争法」、「独占禁止法」および協会の「尿素輸出自主制限公約」の規定に従い、尿素輸出関連企業全員が下記の公約を制定する。

1. 「尿素輸出自主制限公約」を違反する尿素メーカーに対して、その名前を公表する。深刻の場合は政府に報告し、化学肥料に対する優遇政策と国の化学肥料備蓄資格を取り消すよう政府に要請する。
2. 「尿素輸出自主制限公約」を違反する輸出貿易企業に対して、その名前を公表し、尿素メーカーとの取引を禁止する。深刻の場合は政府に報告し、化学肥料に対する優遇政策と国の化学肥料備蓄資格を取り消すよう政府に要請する。
3. 中国窒素肥料工業協会は当該公約の仲裁機構であり、密告・苦情の受付や情報の公開を全般に受け持つ。
4. 当該公約の解釈権は尿素輸出協調機構事務局にあり、2014年7月22日から施行する。

* 中国税関の統計データによれば、2014年1～6月の尿素輸出量が417万トンに達し、昨年同期より200%以上の増加となる。

主な輸出先は、インド143万トン、アメリカ46万トン、バングラデシュ32.7万トン、韓国29.8万トン、メキシコ26万トン、パキスタン19.7万トン、チリ13.9万トン、フィリピン12.7万トンであった。

* ヨーロッパ向けの7～9月加里肥料契約に関する協議がほぼ完了した。塩化加里供給側の目標は10～15ユーロ/トンの値上げであったが、需要側の粘りで、標準塩化加里が8～10ユーロ/トン、粒状塩化加里が12～15ユーロ/トンの値上げに合意した模様。現在、Uralkaliがヨーロッパに輸出する粒状塩化加里のCFRスポット価格が300ユーロ/トン（約405ドル/トン）である。

- * また、今年からブラジル向けの粒状塩化加里 CFR 価格がずっと 350 ドル/トンに安定しているが、供給側は下半期に CFR380 ドル/トンに値上げしようとして、ブラジルに圧力を強めた。
- * 台湾 TFC 社が 7 月 10 日に行った 5000 トン尿素入札に最低応札価格が CFR280 ドル/トンであった。予想応札価格を超えたため、TFC 社は契約を延期した。応札した尿素はすべて中国産で、FOB260 ドル/トン、海上運賃 18~19 ドル/トンと予測する。
また、TFC 社は立続き、大粒尿素の入札も行った。応札の締め切りは 7 月 29 日、契約予定数量 6000 トン、9 月上~中旬納品予定。

大手各社の営業業績

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

その他

- * ロシア政府は、ロシア Uralkali の前 CEO Vladislav Baumgartner 氏の拘留期限が 10 月 14 日に延長することを決定した模様。
2013 年 7 月 1 日、Baumgartner 氏が Uralkali を BPC から離脱する張本人で、その行動により、塩化加里の国際市場価格が約 25% も暴落した。2013 年 8 月、ベラルーシ政府は Baumgartner 氏をベラルーシに招き、BPC に復帰するよう説得したが、不調であった。Baumgartner 氏をロシアに帰国する直前の空港で逮捕した。
ベラルーシ政府はロシア政府と交渉した結果、2013 年 11 月、ロシアで起訴するという条件で、Baumgartner 氏をロシアに引渡して、ロシアで拘留する形にしてきた。但し、起訴することがなかった。2013 年 12 月 Uralkali 社は Baumgartner 氏の CEO 解任を決定したが、現在でも取締役のままである。
- * 7 月 8 日、ウクライナ国際貿易委員会はロシア産硝酸に対する輸入関税を調整することを発表した。実質の関税引き上げである。7 月 8 日から Acron 社の Dorogobuzh 工場産硝酸に 20.51%、EuroChem 社およびその他のロシアメーカー産硝酸に 36.03% 輸入関税を徴収する。当該関税の有効期間は 5 年とする。今回の輸入関税調整はロシア産硝酸を国内市場から締め出す狙いである。ウクライナ国内には Ostchem 社が 2 本の硝酸生産ラインを有する。
- * 中国政府は化学肥料に対する増値税徴収の再開に関する意見聴取会を開いた。中国財務省、税関総署、国家税務総局の責任者が出席して、化学肥料増値税の再開と化学肥料の輸出関税一本化について肥料メーカーから意見を聴取した。

中国は、2001年から尿素とDAP以外の化学肥料に対して、増値税（17%）の徴収を免除し、2005年7月1日から尿素とDAPに対しても増値税の徴収を免除した。しかし、他の商品とのバランスを考えて、化学肥料だけ増値税を徴収しないのは公正と平等に問題あると政府からの説明があった。

また、2007年6月から化学肥料に対して需要期と非需要期を分けて、異なる輸出関税を実施してきたが、国内肥料メーカーからずっと異論があり、輸出関税の撤廃または年間一本化を要請してきた。

- * アメリカのMosaic社は8月にニューメキシコ州エディ郡Carlsbadにある塩化加里精製工場の操業を停止し、閉鎖することを決定した。閉鎖の理由は、ニューメキシコ州Carlsbad盆地から産出した加里鉱石の品質が劣化して、加里鉱山と塩化加里精製工場の設備も老朽化したためである。当該工場の閉鎖により、Mosaic社はニューメキシコ州とエディ郡に計1.6億ドルの賠償金を支払う必要が出てくる。